すてきな子供たち

校 長　関川　健

とてもすてきな歌声と演奏でした。改めて開四小の子供たちのすばらしさに心を洗われました。

今年度の大きな文化的行事「音楽会」は１１月１０日、１１日で終わりましたが、私の心の中にはまだ余韻が残っており、時折子供たちの合唱の歌声や合奏の音色が蘇ってきます。

音楽会に向けては、どの学年も１学期の終わり頃から曲目を決めて取り組み始めました。合奏曲は各学年それぞれ簡単に弾ける曲ではなく、かなりの努力を要することが必至だったと思います。夏休みの課題にもなっていたでしょうか。御家庭の皆様にも見守られながら、一人一人が本当によく努力してきたと思います。２学期に入ると楽器のオーディションをして担当する楽器を決め、いよいよみんなで合わせ、高めていく練習を積み上げました。２週間前からの体育館練習の過程を時々見に行きましたが、子供たちは本当によく頑張っていました。自分の楽器を弾くことで精一杯でリズムやテンポが揃わない時期もありましたが、次第に指揮をよく見て演奏できるようになりました。上の学年では音の強弱の変化なども意識して、表現力を磨いていきました。途中の段階で尋ねると、「楽しい」という言葉が多く聞かれ、楽しく取り組めていることはとてもいいことだと思いました。本番の発表では、練習の成果を存分に発揮して感動的な演奏を聴かせてくれました。合唱曲は、１・２年生はリズムに乗って元気一杯に歌いました。３～６年生は、歌詞に込められたテーマを子供たちなりに理解してそれを表現できるように創り上げました。歌い方の技法と合わせてよい学びができました。「心を一つに最高のメロディー」という子供たち自身が作ったスローガンを見事に体現した音楽会だったと思います。

音楽会の後、子供たちはそれぞれの学年に向けてメッセージカードを書きました。各学年の歌や演奏の感動が子供たちの心にしっかり刻まれたようで、１枚１枚のカードにはすてきな言葉がたくさん散りばめられていました。上級生への憧れや下級生のよさを伝える優しさが感じられるものでした。これも開四小の子供たちのすてきなところです。メッセージカードの一部はＨＰで紹介しています。

さて、今回の音楽会は、久しぶりに全学年分御覧いただける形に戻し、合唱、合奏の両方を発表できる完全な形で実施することができました。入替制での開催はコロナ禍のやむを得ない形であり、学校としては、全ての方に全学年の発表をご覧いただきたいというのが理想です。１００％ではなくても多くの皆様が全学年をご覧くださったことは嬉しい限りです。また、皆様がマナーを守って鑑賞してくださり、子供たちに盛大な拍手を送ってくださりありがとうございました。舞台から全員が退場するまで温かい拍手を続けてくださった開四小の保護者の皆様も、子供たちと同じくとてもすてきでした。本当にありがとうございました。

アンケートにもご協力いただきありがとうございました。２００枚近くに全て目を通しました。両面に書かれた力作もありました。我が子の頑張りや成長を喜んでくださるのはもちろん、本校の子供たちの素晴らしいところをたくさん見付け、また教職員への労いの言葉を書いてくださったことがありがたかったです。次に繋がるエネルギーになります。もちろん修正すべき点やご要望もいただきました。それらも含め、アンケートの内容に関しましては別途まとめて公表したいと考えています。

子供たちは大きな行事への取組を通してまた一つ成長しました。これからも、豊かな感性を育む教育活動を積み重ねてまいります。今後ともよろしく御願いいたします。